

37号

2015/9

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺  
慈雲会  
〒604-8214  
京都市中京区新町通蛸薬師下る  
百足屋町375番地  
TEL/FAX (075)221-4616  
zuirenji@nifty.com  
http://www.zuirenji.net/  
SinsyuuOotaniha  
JiunzanZuirenji  
Jiunkai



慈雲

我今愁憂

世尊威重

無由得見

【『観経』の言葉】

我いま愁憂す。

世尊は威重にして、

見たてまつること得る

に由なし。

韋提希夫人は、幽閉されておられるところから耆闍崛山のお釈迦さまの方に向かつて、自らがとても憂い嘆いていることを訴えます。

そしてこの苦しみを何とかして欲しいのですが、お釈迦さまはたいへん気高く尊い方であり、このような私事でお呼びするのはまことに申し訳ない、とても私などがお見受けできるものではありません、ということです。

かといつてあきらめているわけではありません。「見ることで得るに由なし」といいながら心の中はひとえにお釈迦さまに助けて欲しいのです。その言葉からかえって夫人の切実な気持ち汲み取れます。

今回は

- ① 攝取心光常照護せつしゆしんこうじょうしやうご
- ② 已能雖破無明闇いのうすいはむみょうあん
- ③ 貪愛瞋憎之雲霧とんないしんぞうしうんむ
- ④ 常覆眞信心天じょうふしんじつしんじんてん
- ⑤ 譬如日光覆雲霧ひによにっこうふうんむ
- ⑥ 雲霧之下明無闇うんむしげみょうむあん

の三行六句を学びます。

「攝取の心光、常に照護したまう。すでによく無明の闇を破すといえども、常に眞信心の天に覆えり。たとえば、日光の雲霧に覆わるれども、雲霧の下、明らかにして闇きことなきがごとし。」と読みます。

① 阿弥陀さまが私たちを摂め取るというお心は光となつて常に私たちを照らし護ってくださいます。② それによつて私たちが心に持っている無明の闇である煩惱は破られるのです。

ではもうそれで何も問題はなくなつたかというところではありません。それが②の3字目「雖も」の意味です。③せつかく煩惱が破られたにもかかわらず私たちの根性はどうかというと、あいも変わらず「貪愛(むさぼり)」「瞋憎(いかりにくしみ)」の心が次々と、まるで雲や霧の様にむくむくと起こってきます。④その雲・霧が常に阿弥陀さまのお心である「眞信心の天」を覆ってしまったているのです。

\*

①と④の句にそれぞれ「常」という字が出てきます。①の方は阿弥陀さまの光が私たちを照らすことが常である、という意味です。阿弥陀さまが「今日は照らすけれど明日はやめよう」とか「こちらは照らすけれどあちらは照らさない」等と言われるわけはありません。

「常に」という限り、イツデモ・ドコデモ・ダレデモそのお照らしを蒙ることが出来るのです。

それに対して④の句に出てくる「常に」は私たちの方の問題であります。貪欲・瞋恚・愚痴といういわゆる三毒の煩惱がひつきりなしに起きてきます。

今日一日は煩惱を起さずに生活しようと思つてもそれは至難の業です。これは皆さんもよくお分かりだと思ひます。

この二つの「常」をどういたたくかが今回のポイントです。私の師であります高原覚正先生の『道すでにあり』の文を引用します。

常に自己から目を離さない人だけが、常に呼びかけてくださる本願を感じる人である。また、常に本願の光に照らされている人だけが常におぼれ、いかりの心をもっている自己に気づかされるのである。

光に照らされて煩惱がなくならないまでも薄くなつたように思ひますが、なんのなんのますます激しく渦巻く煩惱に驚かされます。

しかし、だからこそ阿弥陀さまは「常に」照らし護ってくださいますのです。

そのような人にこそ、静かに深い、広い、あたたかな精神生活が開かれるのである。

と先生は締めくくつておられます。

⑤⑥たとえお日様が雲や霧に覆われていてもその下は明るくて闇はないではありませんか、と。

## 【易行風】

四苦八苦という言葉はご存じだと思いますが、元は仏教用語で、四つの苦しみ「生・老・病・死」とそれに「愛別離あいべつり苦・怨憎会苦・求不得苦・五陰盛苦」の四つを加えた八つの苦しみのことです。詳しい話はひかえませんが、「生」は生まれることを意味しています。

これを「生きることだと思つてた」と仰つた方がおられました。私はその発言を聞いて三つの事を考えました。

第一に、「生まれること」と学んだ知識を鵜呑みにして、広く物事を考えることを怠っていた自分の浅はかさです。

インターネット等に書かれている文書や、信頼の置けない人の話は疑つてかかるのに、教科書に書かれている文書や信頼の置ける人の話は鵜呑みにする。このように情報に優劣を付けて処理せざるをえない忙しい時代ですが、全てのことを、広く自分で考えることが必要ではないでしょうか。その手間を怠けていた自分を反省するきっかけになりました。第二に、生まれたことの苦しみとは、生きていくことの苦しみとは。

生きていくことの苦しみは、仕事・家族・生活：それぞれに自分の計らいではどうしようもない苦しみがあることを実感しています。しかし、生まれたことの苦しみはどうでしょう。生まれたから、老・病・死があり、その不安から苦しむのだから、生まれたことも苦しみだとされていきますが実感がありません。生まれたことによつて楽しいことも多くあります。なぜ生きることではなく生まれたことを苦しみとするのでしょうか。今も結論はできていませんが、考えられて良かったと思つていきます。

第三に、人々に問いかけることの大切さです。

発言された方は問いかけとは思つておられなかったかも知れませんが、このように他人に問いかけ、みんなで話し合うこと、これにより私は自分自身を見つめ直すことができました。

答は千差万別でしょうが、皆さんはどう思われますか。

これは、とある会の座談の中での出来事ですが人の輪の中にいて、人の和を知つた気がします。

釋風航

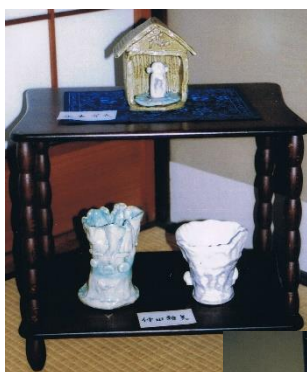
## 【お知らせ】

陶芸グループ「ありんこなかま」の作品展が開催されます。皆様どうぞお越し下さい。お待ち申し上げます。

日時 十月二十四日～二十五日

午前十時～午後四時

場所 瑞蓮寺



【お彼岸のお知らせ】

九月二十三日（水・祝）

秋の彼岸会法要を勤修します  
午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話

岡田 克也師

真宗大谷派法藏寺住職

島根県

津和野町議会議員

終了後 お齋

~~~~~  
【瑞蓮寺同朋の会のお知らせ】

同朋の会を開催いたします。本年度は残り三回となりました。皆様お誘い合わせ、ご参加下さい。

・十月三日（土） 午後二時より

瑞蓮寺にてお話を聞く

本紙で【易行風】を執筆させて頂いている釋風航がお話をさせて頂きます。

「不慣れなもので、お聞き苦しい点多々有ると思いますが、よろしければお越し下さい。」  
(釋風航談)

・十一月二十三日（月・祝）

東本願寺で報恩講に参拝する

御本山の報恩講に参拝します。

集合時間 正午

集合場所 瑞蓮寺

又は

集合時間 午後零時半

集合場所 東本願寺 参拝接待所

・十二月五日（土） 午後二時より

瑞蓮寺にて写真コンテスト

「写真コンテスト」に応募された作品の展示及び表彰を行います。

時間 午後二時

場所 瑞蓮寺

〈作品募集〉

テーマ

「私が見つけた京都！」

応募資格 瑞蓮寺ご門徒及びご家族

提出形態 及び 応募方法

瑞蓮寺にお問い合わせ下さい。

必要事項

①氏名 ②住所（瑞蓮寺登録と異なる場合）

③電話番号 ④作品タイトル

⑤作品説明 ⑥撮影場所

⑦撮影時期

応募期間

平成二十七年十一月下旬まで

スマートホン等で撮った写真をどうやって応募すれば良いの？とお思の方は、ご遠慮なく瑞蓮寺までご相談下さい。

~~~~~  
【編集後記】

少し肌寒くなってきましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。今年の夏も台風や災害が多く発生し、被害に遭われた方が多数おられます。京都市内は幸いにして、そのような被害は出ていないようですが、いつ自分が被災者になるかわかりません。しかし、私自身は特に災害対策もせず、これではいけないと思いつつも現状に甘んじている状態です。皆様は何か準備をされていますでしょうか。

話がかかりますが、秋の観光シーズンになり京都へお越しの方々が、増えてまいりました。私は仕事があり出かける予定がありませんが、皆様は何処かへおでかけでしょうか。「写真コンテスト」の作品を募集しておりますので、おでかけになられたら、撮影されてご応募下さい。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。

<http://www.zuirenji.net/>